

教科	課題（現状、傾向、課題分析）	改善プラン（改善のための具体策や取組）	成果(○)と課題(△)
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・伝えたいことを整理し、順序良く話すことに課題がある。 ・話し手が何を伝えたいのかを考えながら、最後まで静かに聴くことができない児童が多い。 ・作文を書く際、文と文のつながりがうまくできていなかったり、語彙が少ないために伝えたいことを的確に表現できなかつたりする児童が多い。 ・文章を読み取る力はあるが、読み取ったことを基に自分の考えや想像したことを発表したり、書いたりする力を高める必要がある。 ・丁寧に整った文字を書かなかつたり、習った漢字を日常で使わなかつたりするため、定着が十分でない児童がいる。 ・カタカナ、助詞の使い方、拗長音の表記があいまいな児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・伝えたいことを精選し、順序立ててメモに書くなど話すための準備を事前に行うよう指導する。 ・話を聴く時の姿勢を徹底する。自分の考えと比べたり、付け加えたりすることはないか考えながら聴くように継続的に指導する。 ・構成メモを作って作文をし、書くことへの抵抗を減らしていく。短い日記や感想を書くという機会を多く取り入れ、書くことに慣れさせていく。 ・自分の考えや想像したことを書いた後に、交流する機会を意図的に設ける。 ・新出漢字の学習の時間や書写の時間を重点的に、線の長さやとめ、はね、はらいなど字形を意識させた練習に取り組む。日頃から、学習した漢字を用いるよう継続的に声を掛けていく。 ・けやきタイムや家庭学習で繰り返し取り組ませ、習熟を図る。 	
算数	<ul style="list-style-type: none"> ・文章題では、問題の読み違いや単位の付け忘れなどケアレスミスが目立つ。 ・課題の解決方法を、自分の言葉で説明することが苦手な児童がいる。 ・長さやかさの単位の量感が身に付いていない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・問題把握の際、分かっていることや聴かれていることに線を引く活動を取り入れたり、「あわせて」などのキーワードに着目させたりして、問題場面をつかみやすくする。 ・言葉や図、式などを用いて、自分の考えを書き表し、説明する経験を積み重ねられるよう、場を設定する。説明の仕方を示すことで、見通しをもって活動できるようにする。 ・実測したり、自分の指幅など体を使った計測を用いたりする中で、量感を養う。またその際、長さやかさの見当をつけてから測定を行うようにする。 	

生活	<ul style="list-style-type: none"> 野菜や生き物、住んでいる町の様子など、知ってはいるものの、無自覚な状態であることが多い。 体験を通して感じたことや、調べた内容についての気づきに個人差がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 実際に、育てたり、飼ったり、探検したり直接体験や活動をする中で、よさや自分との関わりに気付かせ、無自覚な状態から自覚的な状態に促し、活用できる力を養う。 どのような観点で調べればよいか、予め示しておく。比べたり、分けたり、関連付けたりするなど、気づきを促す具体的な活動を取り入れる。学習カードの良い気づきにアンダーラインを引く。 	
音楽	<ul style="list-style-type: none"> 拍に乗ってリズムを唱える活動は、どの児童もできるようになった。 打楽器は、音楽の様子に合った音を工夫することができたが、旋律楽器は音を出すことが難しく、練習が進まなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> 音符を見てリズム打ちをする活動の他に、自分で作ったリズム活動も取り入れる。 鍵盤の練習では、動画や分かりやすい拡大楽譜などを用いて短時間で分かりやすい教材の工夫をし、楽譜や指遣いに慣れさせる。 	
図画 工作	<ul style="list-style-type: none"> 意欲的に造形活動に取り組んでいる。 つくる方法や順番が分からない児童がいる。 自分の活動に自信がもてない児童がいる。 身近な自然や人工物を基に思い付いてつくる体験が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> 作例や見本を示し、活動の見通しをもち、自分のイメージを広げる。 自分のイメージをもつための十分な時間を保証する。 体全体を使いながら材料と関わる題材を設定する。 	
体育	<ul style="list-style-type: none"> 列をそろえて素早く並ぶ、きまりを守って安全に活動する、集団に合わせて行動しようとする意識が低い児童がいる。 体幹が弱く、気を付けの姿勢を保つことができない、自分の体をうまく操作できない児童がいる。 自分の体を支える力が弱い児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 活動の前に並び方やきまりを確認する。きまりを守ることの大切さを様々な場面で指導していく。 決まった合図で集合や整列ができるように、日々の体育の授業で繰り返し練習をする。 様々な動きや姿勢を経験させる。 互いに動きなどを見合い、アドバイスや良いところを伝え合える場面を意図的に設ける。 うんていやジャングルジムなどの固定遊具を活用する。鉄棒では、練習カードを用いて目標を意識しながら練習させる。技のコツを教え合う場を作る。 	